

米国 ～巡航速度への減速～

経済調査部 主任エコノミスト 桂畑 誠治(かつらはた せいじ)



米経済成長は下振れ

米景気は、徐々に減速している。昨年半ばに、マイナス成長の反動、軍事支出の急増、企業の積極的な販促、ガソリン価格の下落などに支えられ高成長となったが、足元ではドル高の急速な進展、西海岸での港湾スト、冬の嵐の襲来を背景に、景気は下ぶれている。

企業部門では、製造業受注が2月にかけて5ヶ月連続前月比で減少、製造業生産は2月にかけて3ヶ月連続前月比で減少した。3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率では、製造業受注が▲19.3%とマイナス幅を拡大し、生産は+1.8%(1月+4.7%)と減速した。製造業は受注・生産活動の停滞を映じて、軽微な在庫調整局面に入っている。

家計部門では、個人消費が2月に前月比▲0.1%と下振れ、3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率+2.7%(1月+3.9%)と減速感を強めている。

住宅では、販売(中古と新築の一戸建て)が10月の500.9万戸をピークに2月にかけて水準を下げている。ただし、着工件数は2月に悪天候で89.7万戸と急減したが、供給不足を背景に許可件数が高い水準を維持しており、緩やかな拡大基調に変化はない。

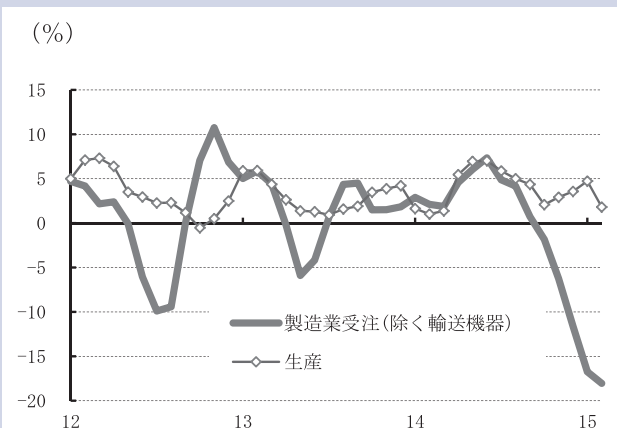
外需では、港湾ストの影響により輸出入ともに減少したが、ドル高もあり輸出の減少幅が大きくなり、成長率を押し下げている。

このようななかで、非農業部門雇用者数(季節調整済み)が3月に前月差+126千人(2月同+264千人)、民間部門が同+129千人(2月同+264千人)と大幅に減速した。3ヵ月移動平均をみると、3月の非農業部門雇用者数(1、2、3月)は前月差+197千人(2月同+265千人)、民間部門雇用者数は同+198千人(2月同+262千人)と、ともに増加ペースは減速した。

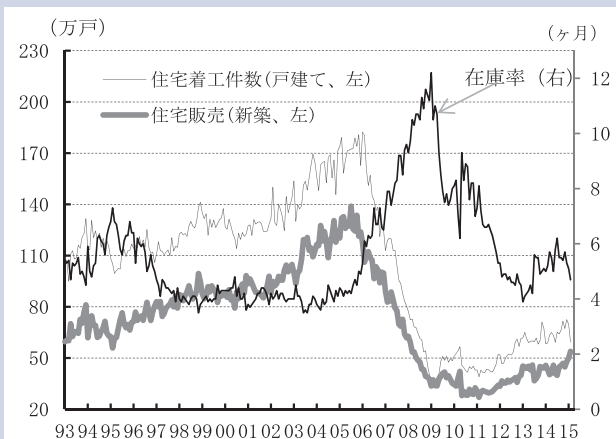
4-6月期に再加速し、巡航速度の成長へ移行

足下で冬の嵐などの悪天候や、西海岸の港湾ストは終了している。また、米経済では、雇用・所得、消費者マインド、経営者マインド、バランスシート、金融環境等の改善が続いており、成長を支える要因は多い。4-6月期には米経済成長率は加速する可能性が高く、その過程で景気に対する過度な不安感は払拭されよう。このような四半期ごとの変動が続く可能性が高いものの、均してみれば米国経済が巡航速度の成長に移行したことが確認される公算が大きい。

資料1 製造業受注・生産(3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率)



資料2 新築住宅販売と住宅着工件数の推移



内外経済ウォッチ